

産業建設常任委員会審査概要報告書

委員長 高岡 宏和

- I 開催年月日 令和 6 年 9 月 24 日（火）
II 会議時間 午後 1 時 00 分～午後 2 時 10 分
III 出席委員等 [出席委員] ◎高岡 宏和 ○田中 勝文 熊木 義城
横田 誠二 山口 泰祐 酒井 善広
上田 武 水口 清志
(◎…委員長 ○…副委員長)
[議長] 本田 利麻
[副議長] ※横田 誠二 副議長は委員として出席
[説明員] 別紙名簿のとおり
[委員外議員] 山上 尊士
[事務局職員] 高嶋 史恵 島田 輝 二口 崇
[傍聴者] 2 名

IV 審査の概要

1 付託議案について

議案第 106 号 令和 6 年度高岡市一般会計補正予算（第 3 号）のうち本委員会所管分

議案第 109 号 令和 6 年度高岡市下水道事業会計補正予算（第 2 号）

議案第 115 号 高岡市下水道条例の一部を改正する条例

及び

議案第 117 号 財産の取得について（建物）

以上、予算議案 2 件、条例議案 1 件及びその他議案 1 件の計 4 件について、審査の結果、全会一致で、いずれも原案のとおり可決すべきものと決した。

〈 審査の過程における質疑等は次のとおり。 〉

（以下、質疑・質問内容は ○、答弁内容は △ で表示）

【議案第 106 号のうち、観光宣伝事業費について】

○ 令和 6 年 10 月から 12 月にかけて北陸デスティネーションキャンペーンが実施されるが、本市で予定しているおもてなしの内容は。

- △ 主なものとしては、市内の観光施設共通クーポンの割引を行い、通常1冊あたり700円のところを500円で販売する。また、宿泊クーポンを利用した観光誘客促進として、市内宿泊者を対象にオンライン旅行予約サービスで使える宿泊割引クーポンを配付するほか、過去に高岡で宿泊した方や観光に関するアンケートを回答された方にも宿泊割引クーポンを配付することとしている。加えて、新高岡駅の観光交流センターにおいて、ご当地ガチャとして富山、石川、福井にちなんだカプセルトイを設置するなど、様々な形でおもてなしをしたい。
- 観光事業者、交通事業者等と連携して実施するという説明があったが、観光事業者や交通事業者以外にどのような方々と連携するのか。
- △ 観光ボランティアをはじめ、様々な方の協力をいただきながら取組を実施していきたい。
- 本委員会では、6年7月に兵庫デスティネーションキャンペーンについて姫路市を行政視察した。兵庫デスティネーションキャンペーンは5年度に行われたが、1年前の4年度にはプレデスティネーションキャンペーン、1年後の6年度にはアフターデスティネーションキャンペーンとして、大々的な企画をしていた。姫路城という国宝、世界文化遺産があるため、それを中心とした観光振興に取り組んでいく意気込みを感じた。本市でも、北陸デスティネーションキャンペーン後も何らかの取組をしてはどうか。
- △ デスティネーションキャンペーンについては、JRが中心となって実施する全国で最も大きな観光キャンペーンの1つである。議員ご指摘のとおり、デスティネーションキャンペーン後も、観光に対する取組が受け継がれていくということは大事であると考えている。具体的な名称や内容は現段階では申し上げられないが、継続して観光振興に取り組むため、予算確保に努めていきたい。

【議案第106号のうち、ものづくり持続的成長推進事業費について】

- 女性の働く環境改善促進事業を新たに追加することだが、導入に至った経緯は。
- △ 今般、市内事業者が採用募集を行っても、なかなか応募がなく、また物価高騰の影響で設備投資ができないほか、SDGsやDXといった新たな観点による企業の価値向上への対応といった様々な企業課題がある。このような中で、女性の労働環境の改善に向けて、トイレ、更衣室、休憩室といったスペースの新設や改修等に伴う企業の投資に必要な費用の一部を支援することとした。また、人口動態によると、就学や就職といった人生のターニングポイントにおいて、県内の女性が転出超過となるという傾向があったため、採用並びに求職時期である9月のタイミングで事業を実施することとした。
- 事業の財源は。
- △ 財源には、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を充当している。
- 事業の効果が認められれば、今後、市単独事業としても継続するのか。
- △ 本事業は女性の就業機会の確保だけでなく、人口減少対策として若い女性にいかにして市内にとどまっていただくかという観点がある。本市では、若者の就職活動

やUターン後の生活支援に関して力を入れているが、企業に対する支援ももう少しあっても良いのではないかと考え、本事業を打ち出した。令和7年度以降についても積極的に支援できるよう財政課と調整していきたい。

- 3点質問したい。1点目は、通常は補助率が2分の1、補助上限額が50万円であるのに対し、とやま女性活躍企業として認定されている場合は補助率が3分の2、補助上限額が100万円に嵩上げされるとのことだが、認定企業は市内に何社あるのか。2点目は、市と県の補助金を重複してもらうことはできるのか。3点目は、本事業について、どれくらいの企業の利用を想定しているのか。
- △ 1点目について、認定企業は6社である。2点目について、県の支援制度との重複はできないため、市と県で有利な方を選んでいただくことになる。3点目について、補助上限額が50万円のものは8社、100万円のものは1社、計9社の利用を想定している。

【議案第106号のうち、農地災害復旧費について】

- 具体的な事業の内容は。また、事業の実施により復旧の進捗率はどうなるのか。
- △ 畦畔や用水路の復旧に関して、令和6年度に国の災害申請を行ったものは全部で9箇所ある。今回補正する国補助事業費で4箇所が復旧する予定であり、全体では約40パーセントが復旧する見込である。残りの5箇所については、7年度当初予算で対応することとし、7年度を目途に復旧を完了させる予定であるが、一部8年度にかかる可能性がある。また、市単独事業費については、国の災害査定要件に合わなかった76箇所の被災箇所の復旧に係るものであり、本定例会で提案している補正予算をもって現時点における全ての被災箇所の復旧が完了する予定である。
- 残りの5箇所については、国の補助を100%とれるのか。
- △ 7月の終わりから8月上旬にかけて、国の災害査定を受けている。補助率は現時点では分からないが、国補助事業として実施することとしている。

【議案第109号について】

- 下水道管渠の災害復旧事業について、震災後の時間経過により新たに発見された下水道管渠の被災箇所について、土砂の撤去やカメラ調査を行うとのことだが、震災から時間が経過した今でも、震災による被害が見つかり続けているのか。
- △ 震災後、時間が経過していくうちに、複数の地域で下水道の敷設の跡が徐々に下がってくるという現象が見られたが、これは地盤の緩みの発現が遅かったものと思われる。現在は新たな被害は出ていないが、今後、新たに発現する可能性も否定できないため、状況を注視していきたい。
- 今後も引き続き注視していただき、適宜、対応していただきたい。（要望）
- 企業債1億円により対応するとのことだが、災害対応ということで国からの財政措置はあるのか。
- △ 地方公営企業災害復旧事業債1億円については、その元利償還金を一般会計から繰り出すことで、その半分は国から交付税措置がある。

【議案第 117 号について】

- 御旅屋セリオの建物を市土地開発公社から買い戻すとのことだが、この件は、当時、市民から住民監査請求が出され、報道でも大きく取り上げられていた。今般、買い戻しにあたって、建物の資産価値は下がっているのか。もし、下がっているのであれば、現在ではなく当時の価格で買い戻すことについての所見は。
- △ 近傍の大手通りの土地価格は多少下落傾向にある。市土地開発公社からの買い戻しについては、約定どおり、取得価格で買い戻すこととしている。

2 報告事項について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

[産業振興部]

- 。令和 6 年度「高岡イノベーション推進事業補助金」採択事業者及び「高岡市チャレンジ新商品」認定事業者（4 月 1 日～8 月 30 日分）について

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

3 閉会中の継続審査について

本委員会の所管事項について、閉会中も継続して調査する必要があるため、会議規則第 104 条の規定により、委員長から議長に継続審査を申し出ることとした。

4 その他

- 。次回の本委員会の開催について

令和 6 年 10 月 17 日（木）午後 1 時に開催することが報告された。

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

【高岡七夕まつりについて】

- 令和 6 年度の高岡七夕まつりをどのように総括しているのか。
- △ 高岡七夕まつりは毎年 8 月 1 日から 7 日までの 7 日間、中心商店街及びその周辺で開催されており、多くの市民の方々に喜んでいただいている。6 年度は、従来の催しのほか、伏木地区の多摩川中央公園において、復旧・復興を願う七夕を飾り、伏木地区の皆様にも親しみを持って楽しんでいただけたのではないかと思います。一方、本市の七夕の象徴であるジャンボ七夕の飾り付けについて、物価高騰等の影響を受けたところもあり、事業の委託先や関係者の皆様とともに知恵と工夫を凝らしながら、今後も中心市街地における市民の憩いの場として提供できるよう努めたい。
- 以前は、市内 20 箇所収集場所を指定し、七夕飾り（竹等）の収集・処分を行っていたが、6 年度はどのように収集・処分したのか。また、収集・処分に要した費用の総額は。

- △ 6年度は、5年度と同様に市内10箇所回収した。回収については、事業の受託者が手配した事業者が行った。費用については、受託者において精査しているところであるが、約100万円と聞いている。
- 100万円が高いか安いか判断しかねるが、この金額についての見解は。回収方法を工夫すればもっと安くなる可能性もあるのでは。
- △ 現行の方法では、100万円の収集費用は妥当ではないかと思う。市民の方々にどこか1箇所に七夕を持っていただき、そこで回収するといった方法もあり、経費の削減効果も見込まれる。
- 子どもたちの将来の夢や希望等を記した短冊を、ごみとしてごみ収集車で回収する方法に違和感を感じている市民がいるが、七夕飾りの収集・処分方法に対する見解は。
- △ 七夕を回収してほしいという市民の声を考慮し、現在の回収拠点を設けている。不要となった七夕は可燃ごみとして回収しているため、市民の目に触れやすい場所にごみ収集車が移動してくるということは、現行の方法ではやむを得ない状況であると思う。例えば、離れた場所に回収場所を設けるなど、収集方法の変更も含めて受託者と協議していきたい。
- 7年度以降は工夫して回収していただくことを要望する。（要望）
- 昔は、祭りが終わったら七夕を千保川へ流し、その後、レッカー車などですくい上げていたという記憶がある。これは現行の処分費用の何倍もの金額をかけていたと思うが、空気感からすると、そちらの方が祭りらしく運営できていたように思う。現在は環境問題など様々な問題があることを踏まえると、現行の方法で致し方ないのではないかと思う。ただ、市民にとっては大切な祭りであるため、何が大切かということをしかりと伝えるべきだと思う。祭りの空気感や雰囲気は大切にしたいが、カーボンニュートラルなど環境配慮の点から、こういう形で行いたいという発信は大切だと思う。このような点も含めて7年度以降の対応を考える必要がある。経費を安く抑えるということについては賛同する。（意見）

【中山間地域における農業の現状について】

- 中山間地域の農業者は、高齢化により80歳近い方々が多く、後継者も不足している。もう限界に近付いており、農地はあと10年もしないうちに休耕田、放棄田になってしまう。20年ほど前は、中山間地の谷間の奥にある圃場でも水稻、大豆、転作作物が作付けられていた。きれいに草刈りもされた良い環境だったが、最近は奥の方から休耕田となり、谷が丸ごと放棄田という形になってきており、雑草も2メートルほどまで伸びている。中山間地直接支払制度もあるが、高齢化のために活用することは現実的ではなく、制度から離脱して諦める農家も増加している。また、以前はイノシシの生息は皆無であり、その個体は図鑑でしか見ることができないほど珍しい存在だったが、出没エリアが奥山から下がってきており、現在は民家に近くなっている。イノシシを防ぐ電気柵は無償支給であるが、その設置や除去、漏電防止のための除草作業を毎年繰り返すこと自体、地元にはかなりの負担となっている。農業施設の修繕における受益者負担についても、離農者の増加を加速させる原

因になってきているようにも感じる。中山間地域における農業労働者の高齢化、後継者不足、イノシシをはじめとする鳥獣被害防止対策など、中山間地域の農業の現状について、どのように捉えているのか。

- △ 全国的に人口減少や高齢化が進行する中で、農業従事者の減少や高齢化は、市内全体の課題であると考えており、特に中山間地域では顕著に進行しているものと受け止めている。現在、各地域の担い手の皆様とともに地域計画の策定を進めているが、地域の農業者の後継者、担い手の確保をはじめとする各地域が抱える農業に関する課題などについて、地域の担い手の皆様の意見や声を聞きながら、県やＪＡといった関係機関とも連携し、引き続き支援のあり方を検討していきたい。鳥獣による農作物被害防止対策としては、捕獲による個体数管理、電気柵の設置による侵入防止、やぶの刈り払いによる生息環境管理の３つの対策を現在実施している。五位山地域のイノシシの捕獲数は、福岡地域全体の７割を占めており、主に捕獲活動に従事していただいている捕獲隊の方に対する支援として、電気とどめ刺しの無償貸与、その他活動に対する日当などをお支払いしている。引き続き地域の皆様の声を聞きながら対応を検討していきたい。
- 小矢部川左岸は中山間地に近く、農業に対する人的労力の減少が著しい。市当局には一生懸命対応していただいているとは思っている。「一緒に頑張りましょう」「相談に乘りますよ」という言葉は非常にありがたいが、地域が頑張れる状況にないということである。具体的に何をしてほしいということは出てこないが、地域が疲弊して、何をどこまで頑張ればいいのかと返すほかない。中山間地域の農業がどこまで持続できるかということと共に考えていただきたい。（要望）

【クルーズ船おもてなし事業について】

- 令和６年９月２９日に入港予定となっているウエステルダムの乗船客について、国籍などの客層は。また、客層を踏まえたおもてなし事業は、どのようなものを考えているのか。
- △ ウエステルダムの船社であるホーランド・アメリカ・ラインからの正式な情報はまだ届いていないが、６年４月７日に同じ船が寄港している。その際の乗船客の９割はイギリス、アメリカ、オーストラリアといった欧米系の外国人で、年齢は高齢の方が多かった。おもてなしとしては、埠頭の飲食物販コーナーで日本の食文化であるたこ焼きの販売、高岡や県内の地場産品を販売する予定である。また、日本文化体験コーナーとして、越中いさみ太鼓という団体の協力により和太鼓の体験を行うほか、けん玉体験をできるテントも設営することとしている。過去には、水引づくりの体験や、菅笠の製作実演など、高岡ならではの文化の紹介もした。出港イベントとしては、和太鼓演奏とともに、地元伏木のバトントワリングの演技でお見送りする予定である。
- 今年はさらに飛鳥Ⅱの入港も控えており、今後もインバウンドの好調が続くことで、クルーズ船入港が増えることが予想されるが、今後のおもてなしの考え方は。
- △ ６年度は、今回のウエステルダムを含めて外国船が４隻、１０月には飛鳥Ⅱが２回寄港することとなっている。欧米系の乗客が多い外国船については、買い物や食

りも体験を好む傾向がある。神社仏閣などをはじめとする日本文化を紹介する際、単にパンフレットの説明書きを英語に直訳するのではなく、文化的背景などを交えて、より深く日本文化を理解していただきたいと考えている。基本的な用語の解説を補足するなど、理解の前提となるような情報を盛り込み、外国人が何に興味を持つかを踏まえたメリハリのある対応に取り組んでいきたい。日本人の乗客については、富山湾寿司をはじめとした海鮮など、食に対するニーズが強い。昼食時に営業している店舗の情報やサービス内容の充実に向け、飲食業を含む観光関連業者との連携を進めていきたい。

- 観光については、すべて経済に落とし込んでいかないと受け入れがたいものになっていくのではないかと思う。全国的に見てもオーバーツーリズムが広がっており、人は来るがお金は落ちない、落ちているのはごみだけという話はよく耳にしていると思う。観光振興に取り組んでいくのであれば、来航いただいた方にどうやってリピーターになっていただくかという視点が大切である。欧米系の乗客は体験型が好みなので、体験型でおもてなしをすることだが、まったく経済が見えてこない。民間としっかりタイアップし、経済にまつわることにでも取り組んでいただき、チャンスをしっかり引き寄せていただきたい。前回、ダイヤモンドプリンセスが寄港したときに、早朝ということもあり、また水曜日ということもあって、高岡駅前の商店街は軒並み休みで、飲食店もほぼ営業していないという状態だった。これは、本会議で我が会派の代表質問で質した市民の意識の醸成というところだと思う。お客様がたくさん来ていただけるということを広く周知し、意識を変えていただきたい。（要望）

【令和6年奥能登豪雨災害に対する応援体制について】

- 6年9月20日からの豪雨で、能登半島では今なお行方不明となっている方もおり、大変心痛く思っている。今回の災害に対して、上下水道局で応援など対応する予定はあるのか。
- △ 広範囲な断水ということで、本市としても心配している。日本水道協会からは、応援要請が出る可能性があるため準備してほしいとの連絡があった。その後、県支部の方に1台給水車を派遣してほしいとの要請があり、富山市が向かった。交代で向かうのではないかと考えており、本市としても絶えず準備している。
- 困ったときには協力体制をとることが大切だと思う。前のめりで協力や応援をしてあげていただきたい。（要望）

〈 当局からの報告はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

産業建設常任委員会 当局説明員（２７名）

産業振興部長	式 庄 寿 人	都市創造部長	赤 阪 忠 良
産業振興部次長	長 久 洋 樹	都市創造部技術政策監	梶 本 敏 規
産業振興部次長	須 田 稔 彦	都市創造部次長	伴 孝 宏
産業振興部参事（兼務）	伴 孝 宏	都市創造部次長 都市計画課長	山 森 久 史
産業企画課長	今 方 順 哉	景観みどり課長	田 口 昌 子
商業雇用課長	中 川 正 人	道路整備課長	中 出 裕 嗣
観光交流課長	野 村 岳 人	土木維持課長	中 澤 俊 一
農業水産課長	割 田 一 郎	建築政策課長	氷 見 和 人
農地林務課長	横 山 太 一	営繕課長	井 林 哲 雄
みなと振興課長	上 田 浩 樹	福岡駅前土地区画整理推進室長	橘 茂 徳
地域振興交流課長	有 栖 友 広		
		上下水道事業管理者	黒 木 克 昌
農業委員会事務局長（併任）	須 田 稔 彦	上下水道局次長	寺 井 義 則
		総務課長	小 久 保 光 章
		営業課長	熊 本 敬 二
		水道工務課長	片 岡 利 行
		下水道工務課長	高 林 隆
		施設維持課長	村 栄 正 英